



FUJI WOMEN'S UNIVERSITY

No.77

Dec.20, 2023

藤

藤女子大学
広報



南山大学と連携および協力に関する包括協定を締結しました

CONTENTS

- 巻頭言～卒業生に支えられて／2
- 南山大学との連携／6
- 藤女子をPRするFuji Balmプロジェクトを実践／8
- 藤女子大学から初の小学校教諭が誕生します／9

クリスマスおめでとうございます！ カトリックの大学として、クリスマスは何といても特別な意味合いがあります。学内はさまざまなクリスマスのオーナメントで飾られ、イエス・キリストのご誕生を祝います。

藤女子大学は、創立以来多くの素晴らしい卒業生たちを輩出し、何よりも母校を愛する卒業生たちによって支えられてきました。今年の6月に英文学科24回生（1987年卒）のミニクラス会が大学内で行われました。その席上、私は彼女たちに「藤の教育の本質について、創立以来、何が大切にされ、卒業生たちが何を学得て学び舎を巣立ったのか、それは社会の中で生きていく中で、どのような役割を果たしてきたのか、それは過去の中でだけ価値あることだったのか、現在、そして未来において、もう価値無しと言えることなのか、あるいは、現代社会の中で、更に意義を持つものなのか」と問いかけてきました。

これに対して、しばらくして一人の教え子が長い文章をメールで送っていただきました。それを皆様にご紹介する許可もいただいておりますので、ご紹介したいと思います。

私たちは何を学んで学び舎を後にしたのか。藤の教育の本質とは何だったのか。あれから折に触れ考え続けていました。そして数か月を経て、私の中に浮かんできている思いが最近ようやく少し言葉になってきましたので、お伝えさせていただきます。

私が藤での日々で得たことは、端的に言えば「深く考えること」だったように思います。物事や出来事に対して最初に浮かんだ自分の反応（感情や考え）にとどまらず、「本当にそうだろうか」「それは別の立場から見ればどういうことになるのか」など様々に思いを馳せてみることを、授業や日々の先生や友人とのかわりを通して繰り返して学んでいたように思うのです。

しかもその時「自分の在り方も含めて」考えることを同時に学び、そこが重要だったように思います。「自分の在り方も含めて」物事を「深く考えること」。

それが藤の教育と言えるのか、それとも永田先生の教育だったのか、また藤以外の大学でも同じように、またはそれ以上に学べることだったのかは実はよく分かりません。ただ、このことは大学の規模や構成と無関係ではなかったように思います。

藤女子大のクラスは50数人いましたから中高までよりも規模は大きいですが、キャンパスもそこで展開する人間関係も20歳前後の自分の視野に辛うじて収まる世界であり、ひとつの小さいけれど小さすぎないコミュニティは、ある程度の多様性を残しつつ人と人との人間的な出会いとそこで起きることを自分事として感じる事ができる、絶妙なサイズだったのではないかと思います。

授業で出会う個性豊かな諸先生や教材となった文学作品を通じて、人の生き様や人生のありようを垣間見たり、様々なバックグラウンドを持った同士が、価値観や向き合い方を互いに見せ合い、時にぶつかりあうことを経験しました。自分の意見や感情をもち、他に働きかけ、その結果を直接受け取ることも経験しました。

物理的に出会う人や出来事の数は限られていましたが、それ故に却ってひとつ一つの経験が心を十分に揺さぶり身に沁み渡るまで、時間をかけ、咀嚼したり考え抜くことの許される環境でありました。また自分が場に与える影響も相対的に大きく、埋没する余地の少ない環境でありました。そこで過ごした4年間

が私という人間の土台を作り、今に至るように思うのです。

当時はまだ、経験というものをその数や種類の多さで測ることは知らず、藤を手狭に感じることもありましたが、でも、今は寧ろ質こそ大切だったのだと分かります。卒業してみれば、経験の数や種類を増やしていく機会はたくさんありました。在学中はむしろ、何をどう考え、行動し（せず）、その結果をはっきりと知り、それをどう受け止めるかという全体を、いわば経験そのものを学ぶことが重要で、それこそが経験の質というものだったのではないかと思います。

藤女子大学は、ある程度情報量の限られたコミュニティでした。人数も、女性しかいないことも、総合大学ではないことも。学生として学内外の日常を営みながら、授業の教材や、先生方のありようや私たちへの働きかけから、また仲間との対話や雑談を通じて、多くを感じ、また考えさせられました。

それが、刺激量が限定されていた環境の中であつたことによって、物事の流は見えやすくなり、また数多のことに気を散らすことなくよく考えてみる作業がしやすく、また自分の思いや動きがコミュニティに反映され、その結果を見届けやすかつた面はあるのではないかと思います。

在学中にそれらをすべて体験し尽くしたとはとても思えませんが、その後の人生を考えてみると、あの4年間にいただいた「自分の在り方を含めてよく考える種」を自分なりに育てながら、ここまで生きてきたように感じます。

以上が私の体験に基づく藤女子大学の教育の姿であり、藤の教育の本質の少なくとも一面ではあろうかと思えます。もちろん卒業生ひとり一人にとっての「藤」と「体験」があるでしょうから一般化はなかなか難しいと思います。それに私の場合は何と云っても級友に恵まれたことが大きく、あのメンバーでなければまた違った体験になっていた可能性は十分にあります。

まして今は、当時とは学部構成はもとより、先生方の顔ぶれも学生の気質や性質も変化しているでしょうから、ますます一般化は難しそうです。それでも、藤女子大学が時代の中でどういう存在であるべきか、ありたいか、よく考えることを卒業生の一人の責任として果たしたく思い、このメールを書き上げました。

(I. K. 英文学科 1987年卒業)

未来共創フォーラム 2023 報告

第1回

煮豆やあんこだけじゃない!!
～もっと自由に!! 豆料理教室

日時 2023年9月10日(日) 10:00～12:30
会場 本学北16条キャンパス3階実験・調理実習室
講師 谷口 まどか氏
(Mame Kitchen Hokkaido代表 本学卒業生)



第2回

大学と社会を接続する
プロジェクトマネジメント

日時 2023年10月8日(日) 10:30～11:55
(藤花祭当日の開催)
会場 本学花川キャンパス4階441教室
講師 杉村 逸郎氏
(北海道大学産学・地域協働推進機構スタートアップ
創出本部 アントレプレナー教育部門部門長/特任教授)
外崎 由香氏
(北海道カラーデザイン研究室代表取締役/本学非常勤講師)
七戸 千絵氏
(株)セントモニカ代表取締役)



未来共創フォーラムの開催報告等は
HPをご覧ください



まちかど CONNECT

報告

「まちかど CONNECT」は、社会貢献活動の一環として今年度から新たに開始した企画です。地域市民の皆様にも本学教員の研究等をより身近に知っていただく機会を設け、地域社会の教育や文化の発展に一層貢献することを目的としています。

第1回

記念すべき第1回は、2023年8月19日(土)に「廃墟礼賛:ドゥニ・デイドロと廃墟の詩学」というテーマで開催され、文学部文化総合学科の松村良祐准教授が講師を務めました。

北海道に数多く残され、今では廃墟となっているかつての繁栄を偲ばせる産業遺産群としての建物を紹介しながら、18世紀のヨーロッパにおける廃墟を主題とした絵画や詩、人口廃墟の制作などについて解説。特に、同時代の哲学者ドゥニ・デイドロに焦点をあて、デイドロが批評を行っている「廃墟の画家」ユベール・ロベールの作品などを紹介しながら、デイドロが廃墟の持つ魅力をどのように理論化しているのか、詳しくお話ししていただきました。



第2回

第2回は、2023年10月29日(日)に「三人三様の“衣”と“食”～平安から現代まで」というテーマで開催し、講師は人間生活学部人間生活学科長尾順子准教授、同・食物栄養学科隈元晴子准教授、奥村昌子准教授が務め、インタビュアーとして三ツ井瑞恵氏(えべナビ!副編集長、本学卒業生)にご登壇いただきました。

長尾准教授からはご自身の研究対象である平安時代の衣装「十二単」についての解説、隈元准教授からはご自身が関わる「子ども食堂」の取組について、奥村准教授からはインドの農村における栄養改善プログラムを中心にご講演いただき、三ツ井氏進行のもと、「衣」と「食」についてトークセッションを行いました。

第3回

●日時: 2024年2月25日(日) 14:00～15:00
(予告) ●会場: 紀伊國屋書店札幌本店1階インナーガーデン
●講師: 人間生活学部子ども教育学科 稲實 順 教授
●テーマ: 材料を軸とした造形活動 ～身近な材料を生かして～

まちかどCONNECTの開催報告、第3回企画の詳細はHPをご覧ください▶



議長から一言

今年度は、新企画として「まちかどCONNECT」を立ち上げました。紀伊國屋書店札幌本店のインナーガーデンをお借りして、本学の先生方の研究活動の一端を広く紹介していきます。少しでも地域社会の教育や文化の発展に貢献できたら良いと考えています。
(社会貢献推進会議議長 大室 道夫)

大学祭実施報告

藤陽祭



新たな出発 ～新・藤陽祭～

北16条キャンパス大学祭
藤陽祭実行委員会委員長
文学部 文化総合学科 3年
U.Aさん

単日開催とはなりましたが、コロナ禍の制限がない状態での藤陽祭を無事開催できたこと、大変嬉しく思っ

ております。今年のテーマである「Muguet」は「幸せな再会」という花言葉を持つスズランを意味しており、新たな門出・出発を祝いたいという目標を掲げ活動しました。

今年度は軽食を扱う模擬店やクラブによる展示・演奏会等、専門学校との共同企画でヘアアレンジを体験できるシンデレラルーム、企業のご協力により実現したビューティーアイテムの体験コーナー白雪姫ルームの出展がありました。講堂では、サークル・有志によるステージ発表や特別ゲストの丸山礼さん、コロネケンさんによるお笑いライブが行われ大盛況でした。加えてロックバンド Lost Back Pointさんによる熱奏が会場を沸かせました。そんな中、柔

軟剤でお馴染みのファーファくんが様々なところに出だし、大学祭を更に盛り上げてくれました。

今までの伝統は残しつつ、新たな風を吹かせてより楽しく、私たちらしい色を出せたことで藤陽祭の歴史の1ページを飾ることができたのではないかと思います。

準備期間・当日は委員の人数が例年よりも少なく、一人ひとりの仕事量が多く大変なこともありましたが、職員の方、協賛・協力いただいた企業様方、地域の方々などに支えられ、私たち自身も楽しむ気持ちを忘れず笑顔でやりきれたのではないかと感じています。お力添えくださった全ての方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

来年度で藤陽祭は60回目となる節目を迎えます。今回見つかった反省・改善点を活かして、より素敵な大学祭になることを心より願っています。



藤花祭



活気に溢れた藤花祭

花川キャンパス大学祭
藤花祭実行委員会委員長
人間生活学部
子ども教育学科 2年
M.Hさん

今年度の藤花祭は2日間の開催となり、昨年よりもさらに多くのステージイベント

や模擬店の出店、地域の方で賑わう大学祭となりました。

今年は約60名の藤花祭実行委員と共に活動してきました。しかし、コロナ禍前の大学祭を経験した学生がいない状況だったため、とても不安でいっぱいでした。それでも各部門に分かれて着々と準備を進め、よりよい藤花

祭にするために頑張ってきました。

子ども教育学科の子ども縁日や人間生活学科の展示等の他、昨年はコロナの影響により食物栄養学科の学生しか出店できなかった飲食店も、今年度は全学科の学生が出店可能となり、多くの学生が大学祭に携わってくださいました。また、地域での広報活動も行い、当日はたくさんの方に来ていただけたのでとても嬉しく思いました。委員や学生部、学生課をはじめとする教職員の皆様など、藤花祭にご協力いただいた方々のおかげでたくさんの方に喜んでもらえた藤花祭となりました。ありがとうございました。来年度も多くの方に愛される藤花祭となるよう願っています。また今年度一生懸命活動してくれた後輩たちが作り上げる大学祭も楽しみにしています。





■ UHB北海道文化放送インターンシップでの経験



文学部
日本語・日本文学科
3年
O.Mさん

UHB北海道文化放送インターンシップで最も印象に残っているのは、ニュース原稿発表体験です。参加学生が「あなたの好きな町の魅力を紹介」をテーマに原稿を持ち寄り、一人ずつ発表しました。発表後は個別に丁寧にフィードバックがあり、注目すべき点の打ち出し方や視点の工夫の仕方などを教えていただきました。「ここだけは絶対に魅力として伝えたい」という点を絞って他の情報と差別化すること、出し惜しみすることなくインパクトある映像とともに情報を発信することなど、たくさんのことを学ばせていただきました。普段何気なく見ている情報番組の裏には、テレビを通じて視聴者に影響を与える情報をいかに生み出せるかの工夫がなされていることに気がきました。

テレビ局という「情報を伝える側」の仕事内容を学ぶことができ、大変良い経験となりました。学生生活でも演習の発表など「情報を伝える」機会は沢山あります。今回学んだことを活かし、魅力ある情報を聞き手に確実に届けられるように成長していきたいです。



11月8日(水)「就活で使える話し方講座」が開催されました

UHBの中村剛大アナウンサーが講師をお務めになられ、これから本格的な就職活動を控える2、3年生を中心に約40名の学生が参加しました。

My Life マイライフ

—卒業生たちのいま—

Vol.2

文学部 日本語・日本文学科 2015年卒業
北海道文化放送 (UHB)
柴田 平美



卒業後、テレビ局のアナウンサーとして働いています。入社1年目から5年目までは夕方の情報番組のMCなどを担当し、6年目からは、土曜に放送している情報番組「いっとこ!」のMCを務めています。アナウンサーは、「言葉で伝える仕事」です。刻々と変わっていく情報を伝えるという仕事は、新しいものに触れる刺激があり、沢山の人と出会えるとても楽しい仕事だと感じています。一方で、観ている人にしっかりと伝わるように言葉選びや伝え方を考えなければなりません。そこに難しさと奥深さを感じ、自分の中で悔しさをおぼえる時もありますが、観た人の発見になり、その時間だけでも明るい気持ちになってもらえるよう放送に向き合っています。また、大学時代は日本語学のゼミに所属し、言葉の研究をしていました。そんな私の好奇心をくみ取っていただけたのか、今は系列局の中で「放送で使用する用語」について考える仕事もさせてもらっています。全国各局のアナウンサーの方々と言葉について何時間も話し合うことは、アナウンサーの仕事ならではのかもしれません。稀有な経験を楽しめているのも、大学時代に言葉について学んでいた時間があったからだと思います。振り返ってみると、何が自分の将来に繋がっていくかわからないものだと日々感じています。学生時代に経験できる講義やサークル活動、アルバイト、何でも良いので少しでも興味を持ったことに飛び込んでいくことをお勧めしたいです。



いっとこ!スタジオの様子。ゲストも来てくれます。

南山大学と包括協定締結の調印式を行いました

2023年10月5日(木)、本学は学校法人南山学園 南山大学と「連携および協力に関する包括協定」を締結し、本学北16条キャンパスにて調印式を執り行いました。

調印式には両大学の関係者が出席し、南山大学卒でフリーアナウンサーの佐藤麻美氏(元HTBアナウンサー)の司会のもと、南山大学のロバート・キサラ学長と本学のハンスユーゲン・マルクス学長による包括協定の概要説明と協定書への署名が行われました。

両大学は共にキリスト教的世界観に基づく建学の理念を掲げており、本協定は相互連携および協力によってそれぞれの特性を活かし、キリスト教カトリック精神に基づく教育・研究の充実と発展および社会への貢献を通して、日本のカトリック教育の使命達成に寄与することを目的としています。具体的な連携事項としては、学生および教職員の相互交流や授業科目の相互提供、教育・研究に関する学術交流と情報提供、国際化推進に関する相互協力と情報交換、大学運営に関する情報交換を掲げています。2025年に学園創立100周年を迎える本学にとって、本協定による活動が学生の教育や大学のさらなる発展に繋がることを期待しています。

なお、当日はHBC北海道放送様に取材にお越しいただき、調印式の様子や締結に至った経緯、今後の展望等に関する副学長へのインタビューが同日の「今日ドキッ!」(16:50~19:00)にて放送されました。



新副学長着任



2023年10月1日付で新たに副学長が着任いたしました。

副学長 **渡邊 頼純**

専門分野：国際政治経済学
GATT / WTO 法
EU 研究

2023年度公開講座・講演会等 2023年11月 現在

- 2023年 7月1日 } 日本語・日本文学会研究発表会
教材としての大岡昇平「俘虜記」を読む
キリシタン資料における「ちょうあい(寵愛)」の現れ方について
- 2023年 7月29日 } 第24回藤女子大学家庭教育研修講座
住生活と日本文化——ペーパー建築模型の制作——
プロジェクトマネジメント事例報告からみる授業の視点づくり
- 2023年 8月19日 } 第1回 藤女子大学まちかどCONNECT
廃墟礼賛——ドゥニ・デイドロと廃墟の詩学
- 2023年 9月1日 } 英語文化学科 公開講演会
昭和ポップスはアメリカ文学の夢を見るか?
- 2023年 9月10日 } 第1回 藤女子大学未来共創フォーラム
煮豆やあんこだけじゃない!!~もっと自由に!!豆料理教室
- 2023年 9月23日 } 藤女子大学キリスト教文化研究所 第23回公開講演会
キリスト教修道制の成立をめぐる
- 2023年 9月30日 } 第1回 教職課程講演会
学校現場におけるGIGAスクール構想の現在地とこれから
- 2023年 10月8日 } 第2回 藤女子大学未来共創フォーラム
大学と社会を接続するプロジェクトマネジメント
- 2023年 10月14日 } 文化総合学科講演会
中世ヨーロッパにおける「神の平和」運動
- 2023年 10月14日 } 日本語・日本文学会研究発表会
(小津安二郎の映画)と文学
- 2023年 10月29日 } 第2回 藤女子大学まちかどCONNECT
三人三様の“衣”と“食” 平安から現代まで
- 2023年 11月11日 } 第2回 教職課程講演会
北海道初となる公立夜間中学の誕生~星友館中学校の役割と展望~
- 2024年 2月25日(予定) } 第3回 藤女子大学まちかどCONNECT
材料を軸とした造形活動~身近な材料を生かして~

2024年4月

学校法人「藤天使学園」となります

カトリック精神に基づく教育を建学の理念として共有する学校法人藤学園と学校法人天使学園は、2024年4月1日付で法人合併し、学校法人「藤天使学園」となります。

藤天使学園は、藤女子大学、藤女子中学・高校、各幼稚園に加えて天使大学を設置することとなり、財政基盤の強化や経営効率の向上などを目指します。

※法人の合併となりますので、藤女子大学と天使大学は現状通り存続します。それぞれの大学名、キャンパス、学部・学科編成に変更はありません。

元藤女子大学文学部文化総合学科
教授 Sr・M・クレメンス・ニーハウス 様

2023年6月29日ご帰天 88歳
1965年藤女子大学講師として着任。1968年助教授、1975年同教授、2000年藤女子大学文学部文化総合学科教授。2005年3月に定年退職。2004年からはカトリックセンター長を併任、退職後も2009年までカトリックセンター長として勤務されるなど、長年に亘り本学を支え、学生の教育にご尽力頂きました。



元藤女子大学事務局
会計課長 Sr・M・ダミアナ 齋藤 京子様

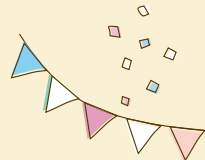
2023年9月19日ご帰天 96歳
1955年から藤女子短期大学に勤務。1987年からは藤女子大学・藤女子短期大学会計課長として勤務、1998年3月に定年退職。長年に亘り事務局で勤務され、本学のためにご尽力頂きました。



心よりご冥福を
お祈りいたします。



藤女子大学の国際交流



藤女子大学の留学生交流

台湾協定校 ^{フジエン} 輔仁大学から1名の交換留学生を受け入れました。9月29日(金)の留学生歓迎会はマルクス学長の歓迎のご挨拶から始まり、国際交流クラブ「なでしこ」によるイベントが行われました。「なんでもフルーツバスケット」や「ジェスチャー」などのゲームを通じて緊張も解け、皆で和やかな時間を過ごしました。

11月25日(土)には、グローバル教育センター主催「実践観光通訳プログラム」に留学生も参加しました。白い恋人パークを会場に、通訳案内士として活躍する3名の方々に講師としてご指導いただきながら、学生は英語と中国語のチームに分かれて観光通訳ガイドの現地体験を行うものです。外国人の方に札幌を案内するという視点から、留学生と日本人学生の双方にとって、大きな学びの経験になったのではと思われます。



大会入賞の記録

2023年11月 現在

本学の学生が各大会において優秀な成績を取めました。おめでとうございます。

第64回 札幌市民スポーツ大会

●学生女子の部 優勝 藤女子大学弓道部

第23回 全日本チアダンス選手権大会・第21回 全日本学生チアダンス選手権大会 北海道予選大会

●大学生編成Pom部門Small 第1位 藤女子大学チアダンス部

第48回 北海道女子学生剣道優勝大会

●第3位 藤女子大学剣道部

令和5年度 第44回

牛乳・乳製品利用料理コンクール実演審査会

●優良賞 人間生活学部 食物栄養学科 1年 伊藤 優芽さん

クラブ・サークル紹介

ラクロス部

最高の学生生活

人間生活学部 子ども教育学科 4年 S.Yさん

こんにちは!ラクロス部です。ラクロスとは、クロスと呼ばれる先端にネットの付いたスティックでボールを操り、1チーム10名で相手ゴールを狙って得点を競う競技です。「大学スポーツの華」と言われるこの競技は、ボールの動きが速くコートも広い(サッカーコートと同じくらい)ので、とても迫力があります!また、北海道では大学から始める競技のため、運動経験がある人もそうでない人も、同じスタートラインから始めることができます!私自身も中学高校と合唱部に所属しており運動部は初めてでしたが優しい先輩方や可愛い後輩たち、他大学の仲間と支え合うことで自分の成長につながりました。そして、今年度は昨年度果たせなかった「秋季リーグ単独出場」という目標を達成できました。出場には20名の登録が必要でしたが、多くの方のご協力により実現できました。皆さんへ感謝の気持ちでいっぱいです。

この4年間は、自分たちで部活を運営する大変さや、それに伴う自分の力不足などを痛感し、とても大変でした。しかし、それ以上お互いに高め合い、励まし合える仲間たちと出会い、共に泣いたり笑ったり語り合い、豊かな時間を過ごすことができました。ラクロスはロサンゼルスオリンピック競技にもなり、今後も盛り上がりを見せてくれると思うので、私たちがさらに高みを目指し続けます!!

※11月に行われた新人戦では酪農学園大学との合同チームとして優勝し、来年2月の全国大会に出場します。

部員数: 11名 (2023年10月時点)
活動場所: 花川キャンパスグラウンド、
体育館
Instagram: @fujiwomenlax



大学へのご支援ありがとうございます

藤女子大学の寄付募集活動は、みなさまの温かいご支援により、2012年度からの累計が1億9千万円に達しました。藤学園創立100周年記念事業に向けたご寄付につきましても重ねてお礼申し上げます。ここに感謝の意を表しご芳名を掲載させていただきます。2023年度のご寄付につきましては、次号の広報「藤」にて、用途等をご報告いたします。

大学への寄付者ご芳名(第22回) 期間 2023年4月1日～2023年9月30日(敬称略・お申込順)

〈卒業生〉				〈教職員・役員〉			〈その他、法人等〉		
土岐 恭子	阿部和加子	匿名	2名	阿部留巳子	匿名	1名	(株)礼芸造園土木	代表取締役 平野 優	日本子ども養育研究会 事務局
高桑 早苗	山崎 暁子	計	7名	福原 直樹	計	3名	藤の実会		計 3名
笹川 祐子									

計13件 2,056,100円

2012年度実績: 377件	12,081,866円	2016年度実績: 179件	16,758,365円	2020年度実績: 141件	15,455,587円
2013年度実績: 277件	17,413,757円	2017年度実績: 153件	10,983,201円	2021年度実績: 135件	4,570,376円
2014年度実績: 191件	76,223,954円	2018年度実績: 126件	13,001,473円	2022年度実績: 141件	6,384,554円
2015年度実績: 181件	6,402,354円	2019年度実績: 139件	16,256,260円		

2012年4月～2023年9月末までの累計 197,587,847円

藤学園創立100周年記念事業へのご寄付ご芳名(第4回) 期間 2023年4月1日～2023年9月30日(敬称略・お申込順)

〈卒業生〉		〈教職員〉		〈その他、法人等〉		
阿部和加子	匿名	山崎 玲子	永田 淑子	遠藤 郁子	逢坂ゆき子	匿名 3名
計 2名		計 2名		齋藤 明美	高堀 康子	計 7名

計11件 3,210,000円

2021年度実績: 1件 50,000円 2022年度実績: 9件 240,000円 2021年4月～2023年9月末までの累計 3,500,000円

藤女子をPRするFuji Balmプロジェクトを实践



人間生活学部 人間生活学科 4年 N.Nさん

私達「藤女子ブランドUPプロジェクト～藤の花からつなげる未来～」チームは、「女子大学の存在価値が問われてきている」という社会課題からスタートし、現役学生である私達が藤女子大学の魅力を伝え、ブランド価値向上に貢献したいと考えてプロジェクトを始めました。具体的には、藤学園を象徴する藤の花を使用した化粧品を開発するとともに、SNSで藤女子大学を盛り上げていくという内容です。そこで完成した

のが「Fuji Balm」です。株式会社セントモニカの七戸千絵様(藤女子中高OG)のご協力のもと、藤学園の構内に咲いている藤の花を学生で採取・乾燥させ、その成分を抽出して本商品を開発・製造しました。ラベルデザインや商品に同封するチラシは、グラフィックデザイナーの今田みのり様(本学OG)のご支援で作成しました。

多くの方々の協力で完成したFuji Balmは、藤花祭で販売し、完売することができました。商品開発を通して、0から1を作る難しさもありましたが、メンバーで協力して乗り越え、Fuji Balmを多くの方に届けることができ、とても嬉しく思います。これからは次世代にこのプロジェクトをつなげるために引き続きゴールまで走り抜けます!



寄付返礼品としての活用

Fuji Balm(フジバーム)は、2023年12月寄付募集分から藤女子大学及び藤学園創立100周年記念事業の寄付返礼品となります。詳細は本学ホームページにてご案内しています。



藤女子大学から初の小学校教諭が誕生します

北海道で最初の保育者養成校の保育学科は、2020年度より子ども教育学科となり、保育者に加え小学校教員の養成も始めました。そして2024年3月には初の卒業生を社会に送り出します。保育や福祉を学び、養護の視点を持った小学校教諭11名（札幌市10名、北海道1名）、特別支援学校教諭1名（北海道）が来春から社会で活躍します。1期生は札幌勤務の希望者が多く、受験者25名中22名が札幌市を受験し、その採用が多くなりました。臨時採用13名を含め、卒業後も互いに切磋琢磨し、保育他異なる職場で働く仲間と語り合い、多角的に子どもと保育・教育を理解し働く卒業生の存在は本学の新たな希望でもあります。

子ども教育学科での4年間の学びを通して

子ども教育学科 4年
K.Yさん

私は、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士という3つの免許・資格取得を目指してきました。

3つの免許・資格を取得するためには必修科目が多く、大変なこともありましたが、子どもたちが課題に取り組む過程を一つひとつ考えることに楽しさを感じ、小学校教諭になりたいと思うようになりました。入学時は保育士を夢見ていたのですが、勉強することで視野が広がり、気持ちにも変化があり、小学校教諭という選択肢があつてよかつたと思っています。

3年生からは、保育園・福祉施設・小学校での実習もあります。その間には、教員採用試験に向けた準備も必要でした。先生方

をはじめ、空き教室の開放・過去問の活用・面接練習など、学科全体の後押しがあつたおかげで、安心して試験に臨むことができました。

4月からは小学校教諭として、子どもたち一人ひとりが社会の中で生きる力を身につけていけるような手助けをしつつ、今の社会情勢をよく捉えながら、子どもたちと関わっていきたいです。



「つながり」を大切に、未来を「切り拓き」、自分らしく「はばたく」一期生

子ども教育学科 4年生担任 准教授 木本 理可

子ども教育学科が開設されて早3年半が経ち、一期生はあと半年ほどの大学生活を残すのみとなりました。とりわけ一期生というものは、同じカリキュラムを経験した先輩がいない「はじめて尽くし」であるわけですが、加えて入学と同時に訪れた「コロナ禍」により、不安感や孤独感、先の見えないストレスなどを感じながら、想定外の大学生活のスタートになりました。しかしながら、この一期生は、1年生では後期の始めにほぼ1カ月間しかなかった対面授業期間中に、これまでの会えない辛さをパワーに替えるかの如く、あつという間に友人の輪を広げ、今では学びに対しても協力しながら取り組める「仲の良い学年」になりました。そんな一人ひとりの未来を切り拓く前向きな姿に支えられる4年間であつたように思います。1期生85名が、この4年間で土台に自分らしくはばたくことができるよう、最後まで応援します。

小学校教員を目指す学生のための「教職セミナー」

子ども教育学科 教授 大室 道夫

伝統ある教員養成校では、卒業生を多く輩出しているため、その先輩方からたくさんのお話を学ぶ機会があります。本学科の第1期生は、当然のことながら先輩がいないため、その機会が無く、小学校教員や教員採用試験に関わる様々な情報がほとんど入ってきませんでした。そこで、授業時間外ではありますが、「教職セミナー」を設定しました。北海道教育委員会や札幌市教育委員会の方に教員志望への意欲喚起や現場の教員に関わる情報を提供していただいたり、小学校教員出身の学科教員が中心となり、面接練習等の教員採用試験対策を行ったりしてきました。

これから毎年北海道・札幌市の小学校、特別支援学校の教壇に多くの卒業生を輩出することにより、良き伝統が作られていくことを期待しています。



教職セミナーの様子



授業・ゼミ紹介!



文学部 英語文化学科 Redlichゼミ (担当教員: Jeremy Redlich 先生)

受講生



文学部
英語文化学科 3年
W.Yさん

Q1: Redlichゼミではどのような学びや取り組みを行っていますか?

文学理論 (literary theory) の基本的な概念や思想を学び、その学びを応用して海外文学の分析を行っています。例えば、前期で学んだ「New Criticism」と「Reader Response Criticism」という批評方法があります。前者はテキストの品詞や比喩表現に、後者は読者の経験に着目します。つまり、文学理論でも論理的なものから感情的なものまでであるということです。文学理論は多岐に渡りますが、日々学習していく中で自分の視野が広がっています。



Q2: Redlichゼミの魅力は?

文学には人それぞれの考え方がありますが、誰もがみな正しいと個々の意見が尊重されます。少人数のため、ディスカッションや意見を述べる機会がとても多く、友人の話や聞くことで多角的に文学を分析しています。さらに授業は全て英語で行われるため、英語力を伸ばしたいという方向に向いています。Redlich先生は、いつも親身になって学生をサポートして下さいます。私は先生に出会えたからこそ、今の自分が存在していると思っています。

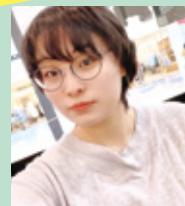


Q3: 今後の抱負を教えてください。

私は1年生から3年生までの学びを通して、環境問題に関心を持ちました。一番の理由は、Redlich先生のオフィスアワーの時間に行ったディスカッションです。世界の現状を知ることによって身近に感じ、興味を持ち始めました。積極的に教養科目で環境問題について学んだり、日常的にニュースなどで情報を集めたりしています。現在は、卒業論文についてどのような方針で書いていくのかについてお話しています。

文学部 日本語・日本文学科 野澤ゼミ (担当教員: 野澤 涼子 先生)

受講生



文学部
日本語・日本文学科 4年
S.Hさん

Q1: 野澤ゼミではどのような学びや取り組みを行っていますか?

授業内の主な取り組みとしては、事前にそれぞれが研究テーマを設けて作品に対する理解を深め、その内容をレジュメにまとめて発表し批評し合うという形です。作品選びの際に特に縛りはありません。近現代文学は幅が広く、明治期から現代の作品まで、さまざまな作品に触れることができます。批評し合う際には些細な疑問も相手に問いかけ、発表者も発言者も理解を深められるようにしています。



Q2: 野澤ゼミの魅力は?

ゼミの魅力は、自分では思いつかない考えを発見できる点と、考えを整理することができる点です。一人で研究をしていると考えが偏ることや、発想に息詰まることもあると思います。授業で批評し合うことで他の学生から意見や純粋な疑問をもらうことができますし、先生から広い見方を教えていただくこともあります。色々な考えに触れ、また研究に向かう姿勢を作ることができるのが魅力です。



Q3: 今後の抱負を教えてください。

私自身は4年生なので、卒業論文を完成させることに注力したいと思います。先行研究を調べて考えを深めつつ、先生から積極的に意見をいただいきたいです。また、同じゼミに所属している3年生の皆さんにアドバイスができるような活動をしたいと考えています。機会があれば卒業論文や就職活動のことについてお話して、私の経験を今後の参考にさせていただきたいです。

文学部 文化総合学科 伊藤ゼミ (担当教員：伊藤 明美 先生)

受講生



文学部
文化総合学科 3年
S.Rさん

Q1：伊藤ゼミではどのような学びや取り組みを行っていますか？

“日本にいる外国人留学生”や“ジェンダーをめぐる世代間の意識”など、具体的な異文化に関するテーマについて学生の研究報告とディスカッションを通して多面的に学んでいます。また、実際にインタビュー調査を行い、分析する作業を通して、卒業論文につながる実践的な活動をしています。ゼミでは、様々なテーマの先行研究論文をクリティカルに読むことで、仮説や課題を引き出す力を身につけることができます。



Q2：伊藤ゼミの魅力は？

2年生・3年生の垣根を超えたコミュニケーションが活発な点が魅力です。ゼミでは、他の授業と比べて発表やディスカッションの場面が本当に多いです。そうした中で、積極的に自分の意見を述べる事ができるアットホームな雰囲気はとても助かっています。また、多様な学生が1つのテーマについて議論することで、新たな視点や考え方を得ることができる点もゼミの面白さです。



Q3：今後の抱負を教えてください。

今後は、日本における韓国文化の受容と対韓意識について研究したいです。これまでの学びにヒントを得て、納得のいく研究ができるよう努力したいと思います。また、4年生になると自分のテーマ以外に触れる機会が減ると思うので、日々のゼミで扱われる多様な問題にも興味を持って取り組みたいです。多様な文化や価値観が混在する世の中を、複眼的な思考を持って理解できるようになりたいと思います。

日本語教員養成課程「日本語教育概論Ⅱ」(担当教員：副田 恵理子 先生)

受講生



文学部
日本語・日本文学科 3年
S.Kさん

Q1：「日本語教育概論Ⅱ」の授業ではどのような学びや取り組みを行っていますか？

この授業では、主にグループに分かれて活動しています。言語教育に関する理論を知り、実践の場で応用できる能力を身につけることを目的としているため、日本語教育に関する多様な問題をテーマにグループで情報収集・話し合いをし、その結果を発表します。また、質疑応答を行うことで、得た知識の確認ができるとともに今後の課題が見えるため、この時間を大切にしています。



Q2：授業で興味・関心を持ったことは？

この授業を通して、今まで当たり前のように受けてきた外国語の授業の中で多くの理論や知識が応用されていたことに気がきました。また、教育に関する知識だけではなく、文化も日本語教育を受ける事情も違う人たちといかに向き合っていくのかという点についても興味を持ちました。これは現在の社会状況にも関わる観点だと思いますので、今後も学びを深めていきたいです。



Q3：今後の抱負について教えてください。

授業を通して、自分の知らない場面ですさまざまな理論の応用がされていたことに気づいたため、今後は当たり前には享受しているものにも疑問を持てるようになりたいと思います。そして、その疑問を解消することで今度は自分の力とし、同じように応用していきたいです。将来日本語教師※を目指すかはまだ決まっていませんが、能動的に行動することを心がけて、学びを深めていきたいです。

※2024年4月から日本語教師は国家資格「登録日本語教員」となる予定です。

札幌藤高等女学校創設から36年を経た1961年、いよいよ北海道初の四年制女子大学である藤女子大学が誕生しました。当時の日本における四年制大学への進学率は、男子が15.4%で女子は3.0%でした。当時の北海道内の四年制大学は、北海道大学、学芸大学（現在の教育大学）、室蘭工業大学、そして私立の北海学園大学（1952年開設）、酪農学園大学（1960年開設）があり、いずれも殆どが男子の教育といってもよい状況で、女子の四年制大学進学希望者は本州に渡らなければなりません。向学心に燃えていても、経済的な事情で諦めなければならない多くの女子がいたのです。

北海道内に、女子の学べる四年制大学を開設してほしいという要望が、藤女子短期大学学長のシスター牧野キクのもとに数多く寄せられ、当時の理事長シスター・クサヴェラ・レーメと学長は、四年制大学の開設を決断したのです。矢野隼輔教授と落合健一教授に申請書の作成を依頼し、文部省と折衝にあたりました。

英文学科と国文学科の2学科のみで、入学定員がそれぞれ50名、総定員400名の小さな大学です。短大英文科竹森健夫教授、国文科宇野親美教授が、それぞれ英文学科・国文学科の構想を練り、教師陣の人選に力を尽くしました。1960年9月1日に「藤女子大学設置認可申請書」を文部大臣に提出し、認可されたのが1961年3月10日のことでした。

設置認可が遅かったため、準備を整えて待っていた入学試験を急ぎ行い、合格者を選抜しました。開学と同時に2年次生の編入試験もあり、短大1年の修了者、2年を終えた卒業者など、両学科にそれぞれ30名近い

編入生が入学しました。

1925年高等女学校開校時の校舎が大学の校舎に利用されたので、私はその校舎で中学1年から高校2年の2学期迄、および大学の4年間を過ごすことになりました。設置認可の前に文部省から実地調査に来られた先生のお一人が、「趣のある建物ですね」とおっしゃってくださったそうです。本当に貧しい校舎でしたが、よく床も磨かれていました。

開設されていた科目数は少なかったのですが、北大からの先生が何人も教えてくださいました。シェークスピアやチャーターも読みました。英詩、小説、エッセイ、英語学、英語史などなど、古典的な学修体系の中で高尚な学びです。英文学科には鹿児島島の先生もおられましたし、国文学科には京都弁の先生もいらっしゃいました。カトリック大学ですが、国文学科に仏教の僧侶の先生もいらっしゃいました。

小さく貧しくはあっても、精神的に豊かな女子大学の誕生です。



藤女子大学開設時の教師陣（短大の教師も一部含む）

産学連携プロジェクト

食物栄養学科 × 国分北海道株式会社 「健康を意識した弁当」の開発

人間生活学部 食物栄養学科の2年生有志が、国分北海道株式会社様と協力して「健康を意識した弁当」の開発を行いました。このプロジェクトの担当者として、本学卒業生の国分北海道・大木英林加様（食物栄養学科 2018年卒業）が関わられ、学生はお弁当の内容について検討を重ねて商品提案書を作成・提案し、改善案のアドバイスをいただきながら商品化に向けて取り組んできました。完成したお弁当は、2024年1月～2月に北雄ラッキーで販売予定です。

